

略 歴

大正13(1924)年2月5日		東京府豊多摩郡落合町（現在の新宿区下落合）にて8人兄弟の末っ子として誕生
昭和23(1948)年9月	24歳	東京大学医学部卒業
昭和25(1950)年1月	25歳	東京大学医学部附属病院第一内科入局
昭和25(1950)年10月	26歳	長野県塩尻村国民健康保険直営診療所赴任
昭和30(1955)年1月	30歳	(財)中央結核研究会富坂診療所所長就任 江戸川区福祉事務所嘱託医就任（兼任）、結核予防事業を担当
昭和33(1958)年8月	33歳	長兄宅にて在宅療養中の母を看取る（享年73歳）
昭和35(1960)年3月	36歳	日本キリスト教海外医療協力会（JOCS）発足に向けて発起人として参加、同年4月発足
昭和35(1962)年3月	38歳	社団法人日本キリスト教海外医療協力会設立、理事就任
昭和35(1962)年12月	38歳	東大病院にて父逝去（享年73歳）
昭和42(1967)年1月	42歳	東京ダイハツビル診療所所長就任
昭和43(1968)年8月	44歳	社団法人日本キリスト教海外医療協力会常務理事就任（昭和45年4月まで）
昭和45(1970)年10月	46歳	社会福祉法人白十字会東京白十字病院院長就任（同法人白十字診療所医師兼務）
昭和46(1971)年11月	47歳	東村山市からの委嘱を受け「ねたきり老人訪問看護事業」を始める
昭和51(1976)年9月	52歳	社会福祉法人白十字会東京白十字病院院長退任（同法人白十字診療所勤務は継続）
昭和53(1978)年5月	54歳	南インド・クリスチャンフェローシップ病院赴任
昭和54(1979)年5月	55歳	社会福祉法人白十字会白十字診療所復職
昭和55(1980)年4月	56歳	ライフケアシステム設立準備開始（4月1日「趣旨説明と皆様のご意見を伺う会」にて世話人選出）
昭和55(1980)年10月	56歳	社会福祉法人白十字会白十字診療所閉鎖、白十字診療所発足、所長就任 ライフケアシステム「モニター期間」開始（64世帯156名対象） 留守番電話に連動したポケットベル利用による24時間ケア、及び訪問看護（往診を含む）開始 河北総合病院と「委託病床協定」締結
昭和56(1981)年1月	56歳	ライフケアシステム設立（1月29日「設立総会」会員数65世帯）、会長就任（翌年、「代表幹事二人制」に移行）
昭和56(1981)年9月	57歳	第33回保健文化賞受賞（東村山市訪問看護事業・ライフケアシステムの活動等地域医療への貢献に対して）
昭和56(1981)年11月	57歳	最寄り会活動始まる（「第1回調布最寄り会」開催） 厚生省の委託研究会に出席（「老人保健法案成立に備えて訪問看護をめぐる諸問題の研究」）
昭和57(1982)年1月	57歳	厚生省の厚生科学研究に参加（「老人在宅ケアの組織化と経済性に関する研究」）
昭和57(1982)年8月	58歳	河北総合病院の協力を得て、第1回訪問看護婦教育セミナー開催
昭和57(1982)年11月	58歳	第6回死の臨床研究会にて論文「病院ケアに対する在宅ケアの優位性」発表
昭和58(1983)年2月	58歳	*老人保健法に基づく老人保健制度実施 診療報酬「退院患者継続看護・指導料（翌年より「寝たきり老人訪問看護・指導料）」が新設される
平成元(1989)年1月	64歳	白十字診療所所長退任（医師として勤務は継続）
平成3(1991)年4月	67歳	第23回日本医学会総会のシンポジウムにて 論文「末期がん在宅ケア料導入の提案－超高齢社会に対応した診療報酬体系の確立をめざして」発表
平成4(1992)年12月	68歳	白十字老人訪問看護ステーション開設（設立に尽力）
平成6(1994)年10月	70歳	*健康保険法改正（末期がん在宅医療に保険適用、在宅医療の位置づけ明文化）
平成7(1995)年11月	71歳	ライフケアシステム千代田区三崎町（水道橋ビル）に移転 佐藤クリニック開設

平成8(1996)年1月	71歳	佐藤クリニック診療開始(平成10年2月終了)
平成10(1998)年3月	74歳	医療法人社団互酬会水道橋東口クリニック診療開始
平成10(1998)年11月	74歳	ライフケアシステム新緊急電話連絡システム運用開始
平成11(1999)年2月	75歳	日本在宅医学会設立、初代会長に就任
平成12(2000)年4月	76歳	*介護保険法施行 NPO法人ライフケア互酬研究会発足、会長に就任(～2007.7終了) 在宅医療助成勇美記念財団の第1回助成を受け、論文を発表 (「介護保険における『在宅老人側に立つ調整役』に関する研究(代表者:互酬研究会会長佐藤智)」)
平成16(2004)年3月	80歳	法人格を取得し、「有限責任中間法人ライフケアシステム」となる
平成18(2006)年4月	82歳	*健康保険法改正(「在宅療養支援診療所」新設)
平成21(2009)年3月	85歳	法人制度改正に伴い、「一般社団法人ライフケアシステム」となる
平成21(2009)年4月	85歳	一般社団法人ライフケアシステム代表理事退任、会長就任
平成28(2016)年11月14日		自宅にて死去(享年92歳)

著 書

書名	著者/編者	発行	発行年
老人の看護 地域医療の実際	佐藤 智/他 著	メヂカルフレンド社	1975
病院消防署論 院長日誌	佐藤 智 著	キリスト教図書出版社	1978
在宅老人に学ぶ 新しい医療の姿を求めて	佐藤 智 著	ミネルヴァ書房	1983
訪問看護の真髄を求めて	佐藤 智 編	経済往来社	1984
「生きる」、そして「死ぬ」ということ	佐藤 智 著	経済往来社	1985
続・訪問看護の真髄を求めて	佐藤 智 編	経済往来社	1986
看とりの医療 ぬくもりの在宅ケアへの道すじ	佐藤 智 編	保険同人社	1987
これからの在宅ケア 「ライフケアシステム」の経験から	佐藤 智 著	医学書院	1988
末期医療のケア その検討と報告	厚生省・日本医師会 佐藤 智 一部(22p)執筆	中央法規出版	1989
在宅ケアの真髄を求めて 在宅ケア拡充の条件と戦略	佐藤 智 編	メヂカルフレンド社	1990
家庭で看取る癌患者 在宅ホスピス入門	川越 厚/佐藤 智 他 共著	メヂカルフレンド社	1991
在宅でこそ その人らしく ライフケアシステム 12年の経験から	佐藤 智 著	ミネルヴァ書房	1992
長寿社会総合講座 5	佐藤 智/古瀬 徹 編著	第一法規出版	1993
在宅ケアを考える 在宅ケアの真髄を求めて	佐藤 智 編	日本評論社	1994
在宅ケアとリビング・ウィル	佐藤 智/坂上正道 共著	日本評論社	1996
介護保険時代の在宅ケア	佐藤 智/大熊由紀子 編著	日本評論社	1999
在宅ケアの真髄を求めて 私の歩んだ一筋の道	佐藤 智 著	日本評論社	2000
死から学び、生を考える [対談]在宅医療の再生に向けて	立川昭二/佐藤 智 共著	日本評論社	2001
ライフケアシステム 20年史 在宅ケアの真髄を求めて	佐藤 智 編	ライフケアシステム	2002
医療改革時代の在宅ケア 死ぬも生きるも我が家がいちばん	佐藤 智 編	日本評論社	2004
(資料) 東村山市の訪問看護のあゆみ 地域ケアのはじまり	東村山市の訪問看護史編集 委員会 編 佐藤 智 一部(2p)執筆	東村山市の訪問看護史 編集委員会	2006
明日の在宅医療 全7巻	佐藤 智 編集代表	中央法規出版	2008